



2012年6月発行  
(平成24年6月)

千葉県立匝瑳高等学校  
同窓会事務局

〒289-2144 千葉県  
匝瑳市八日市場イ-1630

TEL.0479-72-1541

FAX.0479-73-6146

代表：岩井和徳

# 定例総会 6月24日(日)開催

呈茶席 9:00より 総会・講演 10:00より

講演「素粒子と宇宙」 最高エネルギー加速器を用いた国際共同研究

小林 富雄さん(高20)



入学を祝う岩井同窓会長



のびる母校 ひろがる同窓

<http://www.dosokai.ne.jp/sosako/>

# 同期・支部・同好の集い

## 傘寿を祝う 中22高2同期会 (匝陵一九会)

町は立ち入り禁止となり、ゴーストタウンの不気味な怖ろしさや復興の成否についての悩みを話してくれた。

太平洋戦争敗戦の前年、昭和十九年四月に胸躍らせて西ヶ城の門をくぐった少年達も八十歳となった。隔年に行ってきたわが一九会も今回は傘寿を記念して昨年に引き続いての開催となり、前年秋の叙勲で旭日双光章を受章した高木良章君の慶事と併せてのお祝い会となった。

会場は匝瑳市の「梅田家」さん、参加者は三十五名、前回より減り淋しい限りだが高齢故致し方ないのかも知れない。欠席回答にも体調不良が目立ってきた。

記念撮影をした後、松沢稔君の司会で開会し、物故者に黙祷を捧げた後、幹事長に秋山栄君を選出して祝宴に移った。乾盃の発声は神子忠雄君にお願した。彼は福島県の浪江町に住んでいたが三月十一日の東日本大震災で被災し船橋市に避難してきている。

参加者は元気で生活してくれるよう願って激励の言葉を送った。飯岡の津波被害についても親戚や友人に被災者から参加した常世田秀男君から残り少ない人生、一九会の毎年開催が提案され秋山幹事長も検討することを約束した。

その後は例によって在学中の思い出話やそれぞれの近況について話が弾み貴重な一刻を過ごした。途中、鈴木琢雄君の手塩にかけた黄菊の盆栽が運び込まれその見事さを鑑賞した。

最後は四日市清君の指揮で「ここ東海」を三番まで声を取り上げて合唱し閉会となった。閉会后も名残を惜しんで歓談を続けるグループもあったが、やがて、傘寿祝いの紅白饅頭の袋をぶら下げて再会を約して帰路についた。

岩井 幸治(高2)



平成 23 年 11 月 26 日「梅田家」にて

- (前列右より) 大川 馨、山下 巖、松山 敏、江畑 魁、宇井 聰、秋山 栄、菅野 秀夫、最上 峻、四日市 清
- (二列目右より) 伊東(加瀬) 万司、松沢 稔、押尾 鼎、加瀬 浩久、高山 節雄、椎名 三良、大木 好雄、岩崎(宇井) 照、山崎 直仁
- (三列目右より) 岩井 幸治、高上 弥之助、鈴木 通司、磯部 郁夫、椎名 善治郎、金杉 浦夫、井田 敬、大関 正己
- (四列目右より) 土屋 正、常世田 秀男、秋葉(椎名) 庸、鈴木 琢雄、神子 忠雄、向後 寛、大木(馬場) 三郎

## 後期高齢者になった 高7回三年B組クラス会

お互いこんな歳になるまでさしたる呆けもしないでよく生きてこられたと、昔の面影をさがしながらのクラス会である。二年生になってのクラス替えで同じクラスになったとはいえ、選択教科ごとにそれぞれの教室に分散して授業を受けたので、教室ではさしたる印象に残る思い出もない男女数のバランスもなく、毎朝出席をとる大木哲男先生の穏やかな雰囲気だけが、恐らくみんなの共通したクラス意識である。

この会は、すこし以前になるがそれぞれが仕事を離れた頃、暇を持て余した仲間が集いあってクラス会をと企画したのが始まりで、第七回を迎えた今回の会場は初回に行つた千葉市センシティ二十三階にある東天紅である。前回、観月の会は旭市飯岡海岸の民宿井戸野荘が会場であった。翌日は匝瑳高校同窓会主催のゴルフ大会がレインボウヒルズカントリークラブであったことを記憶している。しか



平成23年10月20日 O-3B会 青木栄聖会長

し、その井戸野荘も3・11の津波を受けたと聞く。あの時東北のような大津波が来ていれば、みんな仲良く大木哲男先生のお話である。今宮城へ行っていたかも知れない。そしてあれから一年、今回は懐かしい安田侂先生をお迎えして、往時のこと、その後のお互いに関係する人たちの話題をたどりながら、気持ちだけは青春時代に還ったつもりで白髪、禿頭を超えた楽しいひと刻を過ごした。安田先生は初任で匝瑳高校に赴任してこられたので、我々とは年齢差があまりない。誰が恩師で誰が生徒か見分けのつかない奇

妙なクラス会である。参加者のひとりひとりと匝瑳高校に縁のあるお話をされて、この会を盛り上げてくださった。参加者は十二名と少なかつたが、後期高齢者ともなれば参加多数を期待するわけにもいかないのではとすべきであろうか。

ただ、集まった時だけは若い気分になれるので、七回生B組の皆さん、次回の連絡があれば杖を片手にでもぜひ参加して欲しいと思う。この同窓さふさの紙上を借りてお誘いしておきたい。なお、今回の幹事は、石橋 正・平山鉄博・越川健次郎 他でした。

渋谷 正 (高7)

**いまだに続くクラス旅行  
高11回 E組**

私たちは昭和34年卒業(高校11回)年齢は71歳・72歳です。8学級あった内のE組。入学時の担任は品村先生、高校にもこんなに怖い先生がいるとは驚きだった。卒業時の担任は、今は鬼籍に入られた美術の伊藤稔先生です。

先生が健在であった時、郷

里の三重県からご夫妻をお招きしてのクラス会を開きました。全員で母校へ行き、在校当時のまま、ただ一つ残されていた天文気象部の部室を始め、四百メートルのトラックを備えた公認陸上競技場、校舎など懐かしく見てまわった。その晩は、飯岡荘に宿泊しての盛大なクラス会、すっかり青春にもどり、話題はつきなかつた。次の日は、銚子半島一周のドライブ。思えば高校二年生の時、クラスでサイクリングで銚子へ出かけたことが、一層懐かしく思い出された。なぜか私たちのクラスは行事が好きで、また、その際の団結力は素晴らしいものがあつた。この団結力こそ毎年行われるクラス旅行に引き継がれているのではないか。

11回生は、学年全体での同窓会も数回開かれています。古希を迎えた平成22年(ゆめ半島千葉国体開催年)、有志によるゴルフコンペを実施した。大多喜のゴルフ場で宿泊は養老溪谷とし、紅葉真っ盛りの露天風呂で寛いだ。(写真①)

3Eのクラス会とクラス旅



平成22年11月22日 11回生コンペ (写真①)

行は定期的に数十年続いている。旅行の部は、毎年行なわれ、幹事持ち回りで実施している。

ここ数年の旅行先を紹介しますと、東京、神戸、伊豆半島、北海道(写真②)、南紀、浜名湖、など参加状況は多少変動しますが百パーセントの出席率を持続中のクラスメイトが何人かいる。23年の東京では、秋の叙勲で瑞宝双光彰を受彰した椎名英夫君の祝賀会を急遽開いて大いに盛り上がった。

クラス会での話題は、健康の話(裏を返せば病気の話)や家族、特に孫の諸に夢中になつてしまふ。様々な健康法を知るチャンスでもあり、病気の予防にはどうすればいいのか、病気になるたらどのよう生活をし、どの点に注意すれば良いのか、さらに入院費や諸経費はどれくらいかかるのか、話題はつきない。最近の話題の中心は、後期高齢者となつての施設入所はどこにどのような施設があり、快適な老後は果たして過ごされるのか不安もあり、真剣に質問したりしていた。

話は戻りますが、旅行先での人との出会いも胸をドキドキさせる場面があり、同輩の一人に会うと出身地や出身高校の自慢などしながら、いろいろな情報交換ができ、自分自身を広めることができ



クラス旅行 (写真②)

(つづく)





平成23年10月24日 新淡水ゴルフ場 (台湾)

**『古稀』を祝う**  
**ゴルフ好きの12回生**

感される。旅での食事も楽しみの一つであって、地方の名物を口にし、満足度にしたる事が出来、若返った気持ちになるのも事実です。

林 眞示 (高11)

12回生の有志約40名が『月式会』と称してゴルフを楽しむんでいることは、かつてこの誌面でお知らせしたとおりであるが、このメンバーの多くが昨年『古稀』を迎えた。

これを祝って、昨年10月うち11名が美しい国台湾へゴルフツアーとシヤレこんだ。

ジャック・ニクラウス設計の美麗華CC、赤星六郎設計の新淡水GC、新旧2か所のゴルフ場でプレーを楽しんだ。大変印象深いラウンドであった。

特筆すべきは、台北市きつての名門ホテル『国賓大飯店(アンバサダーホテル)』での祝賀会である。予めホテルへその旨を通知したところ、ホテル側が「わざわざ日本から古稀の方々が来駕され、宴を催されるとは…」と大歓迎してくれたことだ。

宴たけなわ母校の校歌を一同打ち揃って斉唱したが、こんなこともホテルにとっては初めてのことで大いに喜ばれた。

齢七十にして、このようなことのできる健康体を一同感謝したことであった。

僭越ながら、この誌面を借りて近況ご報告するとともに、先輩諸姉諸兄、ご同輩の諸君のご健康とご長寿を心からお祈りするものです。

磯村 武彦 (高12)

**支部の集い**  
**匝東会(東京支部)総会**

平成23年10月8日、アルカディア市ヶ谷(私学会館)において、第13回匝東会総会が、東日本大震災のため半年遅れとなつたにもかかわらず、92名の参加を得て盛大に開催された。

阿部四郎事務局長(高17回)の司会により、第1部総会は、来賓の紹介に続き、伊藤清会長(高10回)より「小さく生んで大きく育てる」をモットーに活動し、母校の環境整備に取り組んだ話を交え、6年の在任をもって退任する旨の挨拶があつた。続いて来賓を代表し、岩井和徳同窓会長、鈴木尚美校長より、震災の状況や母校の様子の報告並びにご挨拶を頂いた。また、この1年間に亡くなられた会員のご冥福を祈り黙祷を捧げた。その後、伊藤会長の議事進行により、活動報告並びに会計及び監査報告の承認を得た。また新執行部の承認とともに、宮崎晴可新会長(高15回)から、「政治色なし、宗教色なし、肩書きなし」だが、

誠心誠意頑張るとの就任挨拶がなされた。続いて、飯島英胤名誉会長(高6回)より、匝東会創設当時から多大な功績があつた林泰弘幹事(高11回)に感謝状が手渡された。第2部講演会は、元東レ(株)副社長の飯島英胤名誉会長から「羽田空港国際化と日韓人の交流について」と題して講演を頂いた。公共事業の裏話や韓国のバイタリティーなど、プロジェクトを使い解りやすく、しかもウィットに富んだ説明を興味深く熱心に拝聴した。

第3部懇親会では、佐々木まさ子(高16回)前林和彦(高26回)両氏の進行により執り行われた。太田昭吉氏(中17回)の匝東高80周年祝賀の詩吟をご披露頂き、木川統一郎氏(中14回)の乾杯の音頭で懇親の宴が始まった。多古町出身の新進気鋭の演歌歌手青山裕太氏(高53回)の多古町を歌った「道の駅」や飯岡漁港を歌った「男の漁港」で大いに盛り上がった。地井武男

氏(高13回)に続くエンターテイナーとして、大きく成長して欲しいとの声援が飛んだ。

その後、会員からお寄せ頂いた景品のチャリティー・オークションが行われ、各位から多大な協賛を頂いた。続いて、外れくじ無しのお楽しみ抽選会で再び盛り上がった。

最後に、「此処東海の道の涯」と匝東中学校歌、「桜花咲き散るかげに」と匝東高校歌を全員で大合唱し、母校の益々の発展と同窓各位のご健勝を祈念して閉会した。

須郷 隆雄 (高17回)



投稿 西部ロシア抑留生活の体験 (飢えと寒さと重労働)



越川 芳雄 (中12)

初めての教え子、現在の双葉小の五年一組男子五十五名を担任した。折しも、あの忌まわしい大東亜戦争勃発二年目、戦況は日増しに悪化していた。坊主頭に裸やはだして鍛える体育。

瞬く間に十ヶ月が過ぎ、兵役に服するため、佐倉連隊の駐屯地を経て、遠く北満州の孫呉へ出征した。子供たちの童心溢れる日の丸の旗の寄せ書きが、抑留生活の支えになった。

♪吹雪に明けてまた暮れる 北満州の国境 酷寒零下四十度 寒さも何の国のため 護る関東健男児

荒野を軍歌が轟き渡る。防寒帽に氷柱が凍る。爆雷を抱えての対戦車肉薄攻撃等の厳しい戦闘訓練に堪え、甲種幹

警防団の服装で偽装し、羅針盤を頼りに、背丈を超える熊笹をくぐり抜けたり、遺書を書いたりして、目的を達成した。中隊は、首都豊原まで八十五kmの夜行軍を敢行し、豊原では、爆撃飛行機が飛び交い、トラック上の連発銃に囲まれ、武装解除された。

樺太南端の大泊から船で着いた港は、何とウラジオストックであった。仮收容所は鉄条網で囲まれ、櫓の上から自動小銃を構えた番兵たちが監視していた。

①ウラジオストックでの一ヶ月 並んで順番に台に乗る。パントンを下ろし、何と陰部と脇の下の毛を剃られた。陰金田虫の予防のためである。

その收容所はお粗末で、床板は隙間だらけで毛布一枚。一日水筒キャップ二杯くらい炒り豆と干し魚の二食で下痢が続いた。南京虫が容赦なく刺し、痛がゆい。サラサラ流れる川水を飯盒に汲み取って飲んだり、洗濯したりする惨めさであった。

二ウラジオストックより 西部ロシアエラブガまで シベリア鉄道で一ヶ月、

シベリア鉄道で一ヶ月、

八千八百kmを、三階建ての貨物列車に寝返りがやっとのギョウ詰めで、一日三百km走る。日々受領する3kgの黒パンは凍りつき、鋸で汗を流しながら挽き分けた。北満国境を西進し、広大なウラル山脈を越え、西部ロシアはボルガ川沿岸のキズネルに到着した。さらに、エラブガまで八十kmの飢えと寒さの死の行軍が続いた。

②エラブガでの辛酸苦悶二ヶ月 飢えと寒さと重労働と ①原木伐採と綱引き櫓運搬

ふた抱えもある原木の下部に鋸と斧で割り込みを入れ、反対側から二人かがりの大鋸で伐採する作業である。大声で「倒れるぞー」と騒ぎ立て、ものすごい音響で倒れていく。下敷きになって死んだ友もいる。雪道や冬の凍ったボルガ川を櫓を使って原木を運ぶ重労働もあった。



冬期の原木搬出 山下静夫画

② 鉄道路線土木工事

斜めの踏み板の上を手押し一輪車で運んで土盛りをする。慣れない重労働に汗びっしょりになる。

その他、敷き板に丸い穴を開けただけの集団便所で凍りついた大便の上に乗って、太い鉄棒で崩す便所掃除、辛い農耕作業。地雷死した馬肉の食い過ぎ騒動などがあつた。忘れもしない昭和二十二年

十二月六日、《命あつての物種》とばかりナホトカから舞鶴港に帰還した。

しかし、懐かしの我が家は、無惨にもB29の爆撃にあつて全焼の憂き目に遭つていた。戦争は悲惨だ。今次、ソ連抑留だけでも六十万人、内六万人も死んだ。戦争は、二度と起こしてはいけない。

帰国した私は、教員不足の折、ロシアボケをこらえて、翌一月から教職に復帰し、子供たちの教育に励んできた。

お陰で、昨年、米寿を迎えた年に高齢者叙勲瑞寶雙光章を受章することができた。

現在は、作曲等の音楽活動でボケてる暇なき人生を送っている。

# コラム「日曜随想」千回達成。

大木 衛さん(中19・20)

毎週、日曜日掲載の「日曜随想」を執筆してついに一千回。郷土の歴史と文化を掘り起こしてきた大木衛さんの偉業を紹介します。「大衆日報」(大衆日報社発行 銚子市春日町)より996回と最終回を転載します。



湾からの豊富な貝類が発掘され、明治時代から有名な貝塚として多くの研究者が調査を行っている。

▼古代からの発掘地・銚子  
銚子地方は気候が温暖で、海や山、里の幸に恵まれ、また生活に最も必要な湧水地などがあり、古代から人々の佳き生活地となっており、多くの遺跡や著名な人々の来銚からも知ることができる。

▼弥生時代から古墳時代の遺跡  
旧銚子西高の建設前の調査で多くの炭化米が発掘され、赤塚町の横穴古墳や野尻の前方後円墳、更に台地上には円墳などが確認されている。

▼石器時代の遺跡  
台地には食料となる実をつける樹木などがありまた遠浅の海岸では貝類が採取され、広大な粟島台遺跡からは古代の人々の住居跡や貝塚が発見されており、昭和二十四年に学術調査が行われている。

▼安倍晴明の伝説  
銚子市には平安時代の陰陽師・安倍晴明の伝説が伝えられている。

▼信太の森の白狐  
父は安倍保名、母は葛の葉(信太の森の白狐)とされる。

▼歩んだ道を振り返り：  
旭市出身で、銚子生活六十年間は多くの方々の愛顧に育てられた。

▼義経伝説ゆかりの銚子の地名  
出自等については『義経記』『吾妻鏡』等に記録されており、文治五年(一一八九年)に藤原泰衡に攻められ、平泉の高館で自害している。

▼千秋楽を迎えて  
語源は「雅楽を演奏する際、一日の最後の曲には祝言の意味から必ず『千秋楽』を演奏したという古い風習から」という説がある。

▼良き師弟の激励  
貧乏学生として国学院で史学を専攻し、考古学を大場磐雄博士に学び、千葉県内各地や銚子市内の余山貝塚や粟島台遺跡での学術調査などを行った。

▼大衆日報社への御礼  
以前、三中の近くで大衆日報社があり、日頃から新聞の発行などを目にし、長く昵懇の付き合いをしてきた。

飯沼観音近くには晴明稲荷親田町の真福寺内に晴明堂があり、上永井や幕の台、帯の坂など晴明ゆかりの地名もある。(後略)

費を用意してくれたと思われ、現在あるのはすでに西国浄土へ旅立った両親のお蔭であり、お彼岸とお盆の墓参は感謝の気持ちでいっぱいである。

太平洋の荒波が打ち寄せる外川や長崎地区の生徒や母たちから多くの生産様式や習慣などを学ぶ機会があり、また三中では商業と農業地域の生活や用語などを直接的に知る機会が多くあった。

銚子市内では犬が七日七晩吠えた地とされる犬吠埼、犬の名前「若丸」から犬若、さらに犬吠埼の突端の馬糞、蝮山、駒をとめたこも浦などがあり、中でも宝満と呼ばれる岩は九郎判官義経がこの辺りに隠れていたとされ、「判官」がなまって「ほうまん」になったとされている。

私の大衆日報へのコラムの連載も多くの知人や友人の激励を受けて千回となり、今回、千秋楽を迎えるにいたった。

浅学のため、政治経済は記さず、もっぱら銚子方面の四季の習慣などを歴史的な面から記述し、五百回の折り目に『歳事風俗誌』を刊行することができた。

両親は旧八日市場町の農家で、当時、県立匝瑳中学への進学は夢であつたらしく、兄弟四人とも進学することができた。旭駅より汽車通学で、いつも弁当持参であつた。

更に文化人類学では樋口清之教授によって未開社会への調査や異文化との交流などの指導を受けた。

毎年、題字は畏友の書家・伊藤謙浦先生に書いていただき、心から感謝している。

両親は身を粉にして働き学

員となり、アジア各地の人々と

に終了いたします。

両親は身を粉にして働き学

員となり、アジア各地の人々と

に終了いたします。

広くじっくり  
学ぶ時間を求めて

進路指導主事 宮原 実

1 入学は第一歩

「匠磋高校への入学は第一歩でしかない。60歳、70歳になったときに有意義だったと思えるよう入学した日から自らを律し、自立して欲しい。」4月に行われた入学式での、岩井和徳同窓会長のお言葉です。新入生327人の生徒は、新たにこの言葉を胸に匠磋高校での生活が始まりました。日頃より同窓会の皆様には本校進路指導を含めて多くのご支援を賜り、感謝申し上げます。昨年は岩井会長より、特に進路指導室にと『高校生のための東大授業ライブ』全3巻(東大出版会2007年)を寄贈いただき、生徒・職員共々進路指導の参考にさせていただいております。

文科学、社会科学、自然科学などの枠組みを超えて、大学入学後の学問研究とは如何なるものかが興味深く書かれています。生徒が自分の進路選択を考える時に、大いに知的好奇心がそそられるシリーズでした。

2 24年度入試の傾向

昨年度実施された大学入試センター試験は、1月14日、15日に全国709会場で約53万人の受験生が参加して実施されました。問題の配布ミスやリスニングでのトラブルなどが目立ったものの、匠高生の受験会場となった東金市・城西国際大学では混乱もなく、277人が無事に試験に臨みました。

今回のセンター試験結果は、2年連続で平均点が上昇し、特に国語(△6・66点)や生物I(△8・56点)で目立ちました。総合平均点でも文系・理系ともにアップし、7科目型(900点満点)の平均点は、文系型が572点(△10点)、理系型が586点(△18点)といずれも上昇しています。経済情勢や就職難といった

社会不安の影響で、国立大の学への人気は安定しているものの、難関国立大の後期日程の廃止や、公立大での減少が顕著だったため、志願者総数は減少しています。また学部系統の人氣も「文低理高」が続き、就職に結びつく資格志向が強いのも特色です。

3 本校生の進路動向

今年三月の卒業生の進路状況は、次のようになります。◆国立大学合格者は、現役37人、過年度16人の合計53人でした。

◆現役生の私立大学合格者の延べ数は、490人で、短期大学合格者は7人でした。◆専門学校合格者は23人でした。

◆就職希望者は、公務員合格者の延べ数が16人で、民間企業が2人です。

センター試験、個別試験と国立大学を受験した生徒数は延べ74人で、合格者は37人です。合格率は50・0%となります。昨年度が30・5%でしたので合格率は大きく上昇したといえます。これは生徒の頑張りはもちろんですが、3学年の先生方を中心に、

熱心に教科や小論文などの個別指導に取り組んでいただいた結果です。特にセンター試験後の出願指導では、生徒の特性を活かす為の出願指導に腐心していただきました。また私立大学では、慶應義塾大、早稲田大、上智大の難関大には7人(前年比増減なし)、MARCHE(明治、青山立教、中央、法政)には67人(前年比5増)、日東駒専には92人(前年比13増)が合格しています。

4 25年度入試に向けて

卒業生が巣立つと同時に、新3年生322人があらたな受験生として文武両道の精神のもと、進路実現の為に毎日学習に勤しんでいます。

前述の岩井会長寄贈の本の中に、「リベラル・アーツの世界へようこそ」というページがあり、そこでは「再生医学の最前線」について書かれています。人気映画『スーパーマン』で主役を演じ、不慮の事故により脊髄を頸椎第一節で座滅損傷したクリストファー・リーブが、彼のよう

から資金を集め、政治家に訴えて再生医学研究を支える原動力になっていった様子がありました。現在日本には脊髄損傷による全身麻痺の患者さんは10万人いるそうです。そのような方を救うには、再生医学や発生物学の研究者になることも大切ですが、それ以外にも患者さんを救うのに大切な観点があるとあります。つまり患者さんを救うのは一面では心の問題でもあり、臨床心理学や哲学、文学、時には音楽だって重要で、言葉の壁を乗り越えるために語学も必要です。またその様な社会活動を支える基盤は経済であり政治の問題でもあります。医学部、理学部、薬学部

のみならず教育学部や文学部、芸術学部、経済学部、法学部など正に広域に学習する「リベラル・アーツ教育」の重要性を説いているのです。匠高生が、学問の多様性と汎用性に気づき、自分の適性を見つけることに多くの時間を費やせるよう、今後とも伝統ある母校のために、よろしくご指導、ご協力の程をお願い申し上げます。

平成23年度 進路状況

国公立大学

Table with 7 columns: University Name, Current Year (Present, Applied, Total), Previous Year (Present, Applied, Total). Lists 47 national/public universities and their statistics.

私立大学

Table with 7 columns: University Name, Current Year (Present, Applied, Total), Previous Year (Present, Applied, Total). Lists 47 private universities and their statistics.

平成24年4月2日現在

Table with 7 columns: University Name, Current Year (Present, Applied, Total), Previous Year (Present, Applied, Total). Lists 47 private universities and their statistics.

Table with 7 columns: University Name, Current Year (Present, Applied, Total), Previous Year (Present, Applied, Total). Lists 47 private universities and their statistics.

就職

Table with 4 columns: Category, Current Year, Previous Year, Total. Shows job statistics for public employees and private companies.

Table with 4 columns: Category, Current Year, Previous Year, Total. Shows total statistics for university preparation.





おめでとうございます

平成23年秋の叙勲

☆瑞宝双光章

高橋 英博さん (高5)

元中学校長

中西 廣さん (高5)

元中学校長

☆瑞宝小綬章

大木 健夫さん (高6)

元高等学校長

☆瑞宝双光章

伊藤 幹雄さん (高7)

元中学校長

椎名 英夫さん (高11)

光町保育園長

平成24年春の叙勲

☆瑞宝双光章

石橋 一正さん (高5)

危険業務



お年寄りの尿検知器を開発して起業

宇井吉美さん (高59)

千葉工業大学の学生2人

が、お年寄りのおむつ交換のタイミングを、において検知する機器を開発し、製造・販売を行う会社を立ち上げた。昨春秋、千葉市であったベンチャー企業育成のコンテストの学生部門でグランプリを受賞。今月5日から市ビジネス支援センター内のブースに事務所を構えた。モノづくりを通して介護の現場を助けたいとの思いでビジネスに挑む。

創業したのは、工学部未来ロボティクス学科4年の宇井吉美さん(23)と大矢将登さん(22)。

ほぼ2年かけ、尿のにおいを吸引するポンプやセンサーを組み込んだシートをベッドの上に敷く方法を開発した。特許を出願し、昨年10月に株式会社「aba」を設立。宇井さんが社長に、大矢さんが技術開発の責任者に就いた。今後はセンターの助言を受けながら、資金の調達や工場発注

の段取りをつけ、夏ごろの製品化を目指す。当初は介護施設に無償で貸し出し、臨床データを集めて改良して販売につなげたいという。

開発のきっかけは、介護施設に実習に行き、働く人たちの声を聞き、大変さを知ったことだった。とりわけ現場で困っていたのはおむつ交換。数時間おきに出ているかどうか確認して回っている。出たときに介護者に伝われば、業務が楽になると考えた。

ぬれを検知する機器がついた専用おむつや、尿をタンクに自動吸引するシステムはすでに実用化されている。宇井さんらは、お年寄りの快適性にこだわり、肌に直接機器が触れないよう工夫した。実際に自分たちがおむつをつけて排尿して実験を繰り返した。

大矢さんは「機能だけを追及するのではなく、まず寝心地の良いシートにしなければ」。宇井さんは「よく産まれ、よく生き、よく死ぬ。そんな社会にするための第一歩をめざしたい」と話している。

朝日新聞千葉版

(平成24年1月18日)

東京支部総会で歌を披露  
青山 祐太さん紹介



本名高橋 祐太 (高53回)

82年10月23日生まれ。多古町出身。家業を継ぐため、調理師学校へ進学。調理師免許を取得。東京に就職した頃、カラオケ教室ゆうゆうと出会い、生徒に。青木じょうじ氏に師事する。

「NHKのど自慢」、BS2の「おーい日本・東京編」のオーディション(審査委員長・秋元康)や多くのカラオケ大会に出場。受賞や合格をするようになる。

師の自宅に住み込みながら歌の修行をし、平成8年に発売された。 ●「雪舞の街／藤もよう」(徳間ジャパン)で歌手デビューを果たす。

その後、平成12年1月に

●「夢街道／道の駅」千葉編(キングレコード)

平成13年11月に

●「風岬／男の漁港」(ウイングジャパン)

がリリースされている。

「歌手を続けてよかったことは、たくさんの方の笑顔に出会えること。それによって、人に支えられていることを実感できるし、頑張らなければいけないって思える。

辛いことは、売れるまでの不安や葛藤。自由であるけど自由ではないもどかしさかな。そんな時、昔の友人や家族に会って話をするとホッとする。」と友人に語っている。「歌という名の夢追いかけて」、まさに夢街道を走りはじめたばかり。地元には後援会も発足。



## 【転出・退職】

職名	氏名	教科	転出先
教諭	滑川 好昭	理科	退職，県立小見川高等学校
主任学校技能員	石井 豊		退職，県立匝瑳高等学校
教頭	横塚 正充		県立佐原高等学校
教諭	須郷 秀明	保体	県立富里高等学校
教諭	吉田 邦弘	国語	県立佐原高等学校
教諭再任用	朝生 倫代	国語	県立佐倉高等学校
教諭	平山 弘志	数学	県立船橋古和釜高等学校
教諭	片岡 和晃	理科	県立岬高等学校
教諭	塚本 雅之	英語	県立銚子商業高等学校
教諭	田中 宏美	英語	市立銚子高等学校
養護教諭	熱田 幸子		県立東金高等学校
実習助手	疋田 久仁子		県立松尾高等学校
臨任講師	小坂 祐子	国語	県立千葉商業高等学校
臨任講師	三浦 拓也	英語	県立銚子商業高等学校
非常勤講師	小柳 美枝	国語	
非常勤講師	小熊 祥子	英語	県立八街高等学校
主査	小川 淑子		県立銚子商業高等学校
主査	及川 佳司		県立東総工業高等学校
主査	久保 敬子		県立匝瑳高等学校（定時制）
上席専門員	関 眞弓		県立市川工業高等学校（定時制）
主査	佐藤 敏子		県立匝瑳高等学校（全日制）

## 【転入】

職名	氏名	教科	平成23年度勤務校
教頭	伊藤 憲		成田市立中台中学校
教諭	前田 康晴	国語	県立旭農業高等学校
教諭再任用	宮野 克行	国語	県立小見川高等学校
教諭	潮田 洋容	数学	県立松尾高等学校
教諭	鎌形 豊 (高25)	理科	県立長生高等学校
教諭	向後 伸志	理科	銚子市立銚子高等学校
教諭	平山 尚樹	保体	県立白井高等学校
教諭	片岡 時雄	英語	県立東金商業高等学校
教諭	加藤 美紀	英語	成田高等学校
教諭再任用	井村 幸男	英語	
養護教諭	外口 有子		銚子市立銚子高等学校
実習助手	宇井 昌子		県立佐原白楊高等学校
臨任講師	石原 弘康 (高50)	国語	県立銚子商業高等学校
非常勤講師	阿部 美奈子	国語	市立銚子高等学校
非常勤講師	田中 和雄	保体	
主査	佐藤 敏子		県立匝瑳高等学校
副主査	旭 きみ枝		県立松尾高等学校
主事	加瀬 道乃 (高53)		銚子市立第八中学校
主任学校技能員	石井 豊		県立匝瑳高等学校
専門員	石田 好美		新卒 兼：佐原
非常勤講師	飯島 幸子		
主査	久保 敬子		県立匝瑳高等学校

# お悔やみ申し上げます

ご遺族もしくは関係者から事務局にご連絡いただきありがとうございます。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

## 《会員訃報》

- 木内 武雄さん(中4) 平成23年11月6日逝去
- 旭市二一六二九六一一七 飯田 秀一さん(中8) 平成23年6月17日逝去
- 北新宿一三〇一三〇一 一〇三 中川 洸さん(中11) 平成21年12月9日逝去
- 平成21年12月9日逝去 匠瑛市八日市場イ一一六〇 加瀬 操さん(中12) 平成23年10月31日逝去
- 藤沢市辻堂六一二四一一 大木 秀夫さん(中12) 平成24年1月20日逝去
- 横芝光町木戸四六七〇 日野 寛さん(中13) 平成24年1月逝去
- 旭市後草一九七三 常世田正吾さん(中15) 平成23年8月2日逝去
- 花見川区花園一五二五一一三 浪川 正克さん(中15) 平成23年3月14日逝去
- 旭市後草一九七 岩瀬 勲さん(中16) 平成23年10月6日逝去
- 旭市三川七〇四四 林 丈夫さん(中18) 平成22年2月23日逝去
- 旭市萬力二六八五 塚本 芳男さん(中18) 平成24年3月9日逝去
- 旭市二一一四七三 菅 健さん(高2) 平成22年12月15日逝去
- 匠瑛市椿三三七 高橋 章一さん(高2) 平成24年1月19日逝去
- 松戸市小山八一七 久古 幸夫さん(高3) 平成23年7月8日逝去
- 青葉区美しが丘一一一七一 五一一四〇三 石毛 康利さん(高5) 平成23年10月25日逝去
- 旭市西足洗五六二一六〇

- 太田 定吉さん(高5) 平成23年9月10日逝去
- 匠瑛市八日市場イ一一六〇 二八〇四 金杉 信夫さん(高5) 平成23年5月12日逝去
- 匠瑛市久方二二〇 宮崎 博夫さん(高5) 平成23年3月3日逝去
- 匠瑛市八日市場イ一一六〇 二一六八一一 木内 三生さん(高6) 平成23年4月11日逝去
- 四街道市大日九三一九 松井 陽三さん(高7) 平成23年4月12日逝去
- 白井市清水口一一四一三 一一〇一 藤田 千恵さん(高8) 平成21年9月13日逝去
- 北佐久郡軽井沢町発地 九四〇一一八 木村 良雄さん(高9) 平成23年9月25日逝去
- 江東区塩浜一一五一一 六〇一 渡辺 衛さん(高9) 平成23年7月27日逝去
- 旭市鑄木一三七九 大木 洋さん(高11) 平成22年10月1日逝去
- 相模原市南区東大沼四一一 二三一五 本田 貞子さん(高12) 平成22年8月11日逝去
- 匠瑛市八日市場ロ一三二七 平野 栄司さん(高12) 平成22年6月16日逝去
- 流山市東初石三一二七一 三 小関 弘さん(高12) 平成21年2月6日逝去
- 四街道市大日一九五三一一四 高橋 昭さん(高14) 平成23年12月10日逝去
- 所沢市下安松六四七一一 菅沢 忠彦さん(高15) 平成22年11月 逝去
- 成田市南平台一一六九一一 二七 興梠 勝子さん(高15) 平成23年7月27日逝去
- 東久留米市中央町三一八 一一三 佐藤 武俊さん(高16) 平成23年10月 逝去
- 昭鼻市緑町一一一一一三二 鈴木 和夫さん(高18) 平成23年6月17日逝去
- 横芝光町宮川二二八四 増田登代子さん(高28) 平成22年10月7日逝去
- 旭市万才二七五二一一

### お詫びと訂正

前回の号に、誤りがありました。  
 ○12ページ、三段5行目 行き続ける↓生き続ける  
 ○13ページ、終身会員納入者  
 畔蒜正男さん↓正雄さん  
 訂正してお詫び申し上げます。

### 三四三名が卒業 同窓会入会式を挙行

今年の卒業証書授与式は、三月八日に挙行された。全日制は第六十四回、定時制は第五十八回の卒業にあたる。卒業生の内訳は左の通り。

- 全日制普通科 二四五名
  - 理数科 四〇名
  - 英語科 四〇名
  - 定時制 一八名
  - 合計 三四三名
- また同窓会入会式は、全日制は前日の卒業式予行後、定時制は卒業式後に行われ、同窓会新幹事九名が委嘱された。
- A 佐藤 純 B 白井 佑佳
  - C 山浦 大樹 D 柴田聡太郎
  - E 那須 康史 F 鈴木 麻端
  - G 瀧口 眞央 H 荒木 祥行
  - P 戸村 俊昭

終身会費納入者

※平成二十三年九月七日から二十四年三月二十八日受付まで

- 林 茂樹 (高十九・二十回) 秋葉 健二 (高四十一回)
林 波戸 史之 (高十九回) 藤田 知美 (高四十三回)
伊藤美恵子 (高八回) 越川 頼知 (高四十四回)
土屋 隆一 (高八回) 増田 重信 (高四十七回)
勝股ゆき子 (高九回) 齊田 英代 (高五十二回)
石和田 功 (高十回) 皆川喜美子 (高五十三回)
小野 志津 (高十一回) 加瀬 元子 (高五十四回)
笹本 正則 (高十二回) 土屋 菊雄 (高五十六回)
平山 博通 (高十三回) 林 雅彦 (高五十七回)
高木 昭二 (高十四回) 椎名 健二 (高五十八回)
勝股 満男 (高十五回) 磯部 康子 (高五十九回)
林 實 (高十六回) 常世田和夫 (高六十回)
大木 安洋 (高十七回) 武井あづさ (高六十一回)
黒須 美子 (高十八回) 鈴木 智 (高六十二回)
葛馬 武 (高十九回) 椎名 和浩 (高六十三回)
遠藤 光彦 (高二十回) 伊藤 浩和 (高六十四回)
山邊 征 (高二十一回)
(高十七回)

年会費納入者

※平成二十三年九月七日から二十四年三月二十八日受付まで
※名前の下の数字は納入していた
だいた年数を示します

- 金子 和仁 (高二十八回) 伊藤 正枝 (高四十一回) 遠藤 昌子 (高四十二回) 藤田 知美 (高四十三回)
伊藤 知子 (高四十四回) 鈴木 匡 (高四十七回) 鈴木 尚 (高四十九回) 吉岡 知美 (高五十二回)
鈴木 理夫 (高五十三回) 鈴木 雅彦 (高五十四回) 福本 梓 (高五十六回) 大塚 昇 (高五十七回)
大久保 悟 (高五十八回) 大塚 友希 (高五十九回) 木内将市郎 (高六十回)
伊藤 宏10 (高十五回) 鎌田 勝男10 (高十六回) 椎名 稔5 (高十七回)
伊藤 宏10 (高十八回) 平野由紀江10 (高十九回) 宇野 勝義10 (高二十回)
森 眞義10 (高二十一回) 越川 孝雄10 (高二十二回) 江波戸俊夫5 (高二十三回)
江波戸俊夫5 (高二十四回) 林 雅彦 (高二十五回) 宮内 一郎10 (高二十六回)
山中美和子10 (高二十七回) 椎名 秀明10 (高二十八回) 土屋 俊夫2 (高二十九回)
崎山美枝子5 (高三十回) 伊知地良洋3 (高三十一回) 江波戸久元5 (高三十二回)
小柳 雅敏10 (高三十三回) 小川眞砂子5 (高三十四回) 小川眞砂子5 (高三十五回)
小林ひさ子5 (高三十六回) 那須 正子5 (高三十七回) 林 富江10 (高三十八回)
宮本 歌子10 (高二十一回) 青野 貞子10 (高二十二回) 佐久間 章5 (高二十三回)
衣鳩 和治10 (高二十四回) 平江 謙10 (高二十五回) 熱田 文彦10 (高二十六回)
熱田 文彦10 (高二十七回) 栖閑 正夫10 (高二十八回) 長谷川正子10 (高二十九回)
及川 博2 (高三十回) 林 正俊5 (高三十一回) 木内 淑子5 (高三十二回)
常世田修一15 (高三十三回) 渡辺 恭子5 (高三十四回) 加瀬 一幸10 (高三十五回)
加瀬 一幸10 (高三十六回) 加瀬 正嘉2 (高三十七回) 齊藤 政智10 (高三十八回)
大川 優1 (高三十九回) 石橋 康4 (高四十回) 岩井亜紀代5 (高四十一回)
岩井亜紀代5 (高四十二回) 遠藤 祐10 (高四十三回) 熱田 圭佑5 (高四十四回)
神保 良奈5 (高四十五回) 吉田加代子5 (高四十六回) 佐藤 守10 (高四十七回)
林 達之1 (高四十八回) 井田 孝10 (高四十九回) 伊藤 寿洋5 (高五十回)
桜井 隆宏1 (高五十一回) 飯田 之義5 (高五十二回) 大木 茂10 (高五十三回)
大木 康至10 (高五十四回) 高神 和子10 (高五十五回) 佐藤 陽子5 (高五十六回)
大黒佳代子2 (高五十七回) 加瀬 一幸10 (高五十八回) 加瀬 正嘉2 (高五十九回)
齊藤 政智10 (高六十回) 大川 優1 (高六十一回) 石橋 康4 (高六十二回)
岩井亜紀代5 (高六十三回) 遠藤 祐10 (高六十四回) 熱田 圭佑5 (高六十五回)
神保 良奈5 (高六十六回) 萩原 清美5 (高六十七回) 大家 朋之5 (高六十八回)
実川 啓明3 (高六十九回) 橋本 正貴10 (高七十回) 浅野 泰栄5 (高七十一回)
梅田ゆかり2 (高七十二回) 神原 真人10 (高七十三回)

編集後記

前号でもお知らせいたしました。原稿をお寄せください。同窓生の活躍など、自薦・他薦を問いません。どしどし投稿をお願いいたします。11月発行号の締切は9月末日です。

《第45号編集委員》

- 馬淵 英夫 (高10)
品村 晃祥 (中14)
平山 武彦 (高7)
綿貫ひろ子 (高8)
米本 雅男 (高10)
富澤 汎子 (高11)
川口 克己 (高15)
岩瀬 道治
(事務局/高24)
岩井 和徳 (高19)